

東京2020オリンピック競技大会の追加種目について

経緯

- 平成26年12月8日 IOC総会で「オリンピックアジェンダ2020」採択
開催都市の組織委員会が、当該大会での追加種目をIOCに提案することが可能となる。
- 平成27年2月9日 第1回東京2020種目追加検討会議を開催
有識者7名により構成
- 5月8日 IOC承認国際競技団体(33団体)を対象として提案募集開始
組織委員会が3つの主要原則を盛り込んだ応募要項を発表
- 6月8日 IOCが評価項目(5テーマ・35項目)を発表
- 6月8日 応募期限(26団体が応募)
- 6月22日 ヒアリング対象団体(8団体)を発表
- 8月1日 IOCが追加種目の選手数を500人以内とすることを提示
- 8月7・8日 ヒアリング実施
- 9月28日 種目追加検討会議において提案種目案を決定
組織委員会理事会において提案種目を決定
(5競技18種目)
IOCへ追加種目を提案

IOCに提案した追加種目一覧

競技	提案種目	種目数	選手数(人)
野球・ソフトボール	野球(男子)	1	144
	ソフトボール(女子)	1	90
空手	形(男女)	2	20
	組手3階級(男女)	6	60
スケートボード	ストリート(男女)	2	40
	パーク(男女)	2	40
スポーツクライミング	ボルダリング・リード・スピード複合(男女)	2	40
サーフィン	ショートボード(男女)	2	40
5競技計		18	474

今後のスケジュール

- 平成28年8月 IOC総会(リオ・デ・ジャネイロ)にて最終決定

参考：評価項目

<種目追加の提案を行うにあたっての主要原則>

- ① 追加種目は、若者へのアピールを中心に、オリンピック・ムーブメントとその価値を推進するものであること。
- ② 追加種目は、東京2020大会のビジョンを反映して、日本での機運を高め、世界中の新たな聴衆を巻き込むことにより大会に付加価値をもたらすものであること。
- ③ 選考手続きは、開かれた公平なものであること。

<IOCが示した種目追加に関する評価項目(5テーマ・35項目)のうち主なもの>

- ① オリンピックへの提案(種目数、競技形式、競技日数、選手及び役員数、会場等)
- ② オリンピック・ムーブメントへの付加価値(大会期間中、レガシー、若者)
- ③ 体制(世界選手権開催実績、NOC加盟団体数、世界選手権参加団体数等)
- ④ 人気(テレビ取材・中継、デジタルメディア等)
- ⑤ ビジネスモデル(予想コスト、対象とする追加収入)